

Update the Value Standard

早川浩士
(有) ハヤカワプランニング
代表取締役

約7割近くの人が神経質に

9月に入って、旅客機内でマスク着用をめぐるトラブルを起こした乗客を臨時着陸して降ろしたという事例が報道された。

新型コロナウイルス感染防止のためマスク着用を求められた乗客が拒否したことに端を発し

し、他の乗客や客室乗務員を威嚇したなどから、機長が航空機内の規律に違反する行為等の安全阻害行為を禁止する航空法に照らし合わせて判断した行動に注目が集まるなか、またはマスク着用を拒んだ乗客が、離陸前の機内から降ろされるといふ事例が起きた。ビッグロップ株式会社が発表し

た調査結果が脳裏を掠めた(※)。それは「Withコロナ時代になってより強く感じるストレス(複数回答)」を問うもので、最も多い回答は「常にマスクを付けなければならぬこと(54.5%)」。「Withコロナがいつまで続くかわからない不安(53.4%)」「旅行ができないこと(43.1%)」「感

染予防で気疲れすること(40.4%)」「気軽に人と会って話せないこと(36.8%)」と続く。「新型コロナウイルス流行前と比べて、さまざまなことに対し神経質になっているか」という問いには、「そう思う(23.6%)」「ややそう思う(43.7%)」と約7割近くの人が神経質になっ

たと回答した。

また、マスクがないと肺が腐ってしまふ腐海と共に生きる宮崎駿の「風の谷のナウシカ」に描かれた世界を想起する機会となった。

感染症や災害への対応力強化

9月4日、社会保障審議会介護給付費分科会が開かれ、2021

年度介護報酬改定に向けた第2ラウンドの議論がはじまった。

これまでの分野横断的テーマとして、①地域包括ケアシステム推進、②自立支援・重度化防止推進、③介護人材確保・現場改革、④制度安全性・持続可能性確保に加え、新たに⑤感染症や災害への対応力強化を加えた5つを議論の柱と

Withコロナ時代になって

より強く感じるストレスと

付き合う

Profile

はやかわ・ひろし ● 経営コンサルタント。「継承と人財創造塾」主宰。『介護ビジョン』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『データで徹底分析介護事業の最新動向と経営展望』、『99の言葉の杖』(いずれも日本医療企画)、『介護保険改正に勝つ！経営』(年友企画)など。本誌にて『経営(継承)のツボ』を創刊から200回(16年8カ月)連載

URL www.hayakawa-planning.com

し、年末に向けて取りまとめる方針が示された。だが、感染症対応で委員会設置や指針整備が義務付けられている介護施設に対し、通所系・居住系のサービスは努力義務である。災害対応では認知症対応型グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業で努力義務とされる地域住民

と連携した避難訓練などの規定については、他のサービスにはない。「感染症や災害への対応力強化」は、「Withコロナ時代になってより強く感じるストレス」と付き合うためにも「マスク着用の義務化」の議論を避けてはいけない。これまでの日常や常識が危うい。